

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	:	シフルメトフェン
SDS コード	:	Q9-13
供給者の会社名称	:	
林純薬工業株式会社		
住所	:	大阪府大阪市中央区内平野町 3 丁目 2 番 12 号
電話番号	:	06-6910-7305
E-mail	:	shiyaku_kikaku@hpc-j.co.jp
URL	:	https://direct.hpc-j.co.jp/
緊急連絡電話番号	:	06-6910-7305
推奨用途	:	試験研究用
使用上の制限	:	試験研究以外の用途には使用しない事。人体又は動物用の医薬品、食品、家庭用品、化粧品等には使用しない事。環境中に使用しない事。

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理的危険性	爆発物	区分に該当しない	
	可燃性ガス	区分に該当しない	
	エアゾール	区分に該当しない	
	酸化性ガス	区分に該当しない	
	高压ガス	区分に該当しない	
	引火性液体	区分に該当しない	
	可燃性固体	分類できない	
	自己反応性化学品	区分に該当しない	
	自然発火性液体	区分に該当しない	
	自然発火性固体	分類できない	
	自己発熱性化学品	分類できない	
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない	
	酸化性液体	区分に該当しない	
	酸化性固体	区分に該当しない	
	有機過氧化物	区分に該当しない	
	金属腐食性化学品	分類できない	
	鈍性化爆発物	区分に該当しない	
	健康有害性	急性毒性 (経口)	区分に該当しない
		急性毒性 (経皮)	区分に該当しない
		急性毒性 (吸入: 気体)	区分に該当しない
急性毒性 (吸入: 蒸気)		分類できない	
急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト)		分類できない	
皮膚腐食性/刺激性		区分に該当しない	
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性		区分に該当しない	
呼吸器感作性		分類できない	
皮膚感作性		区分 1	
生殖細胞変異原性		区分に該当しない	
発がん性		区分 2	

環境有害性	生殖毒性	区分に該当しない
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	分類できない
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 2 (副腎)
	誤えん有害性	分類できない
	水生環境有害性 短期(急性)	分類できない
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分 1
	オゾン層への有害性	分類できない

絵表示
(GHS JP)



GHS07



GHS08



GHS09

注意喚起語 (GHS JP)	: 警告
危険有害性 (GHS JP)	: アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ (H317) 発がんのおそれの疑い (H351) 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ (副腎) (H373) 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性 (H410)
注意書き (GHS JP)	
安全対策	: 使用前に取扱説明書を入手すること。(P201) 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202) 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。(P260) 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。(P272) 環境への放出を避けること。(P273) 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。(P280)
応急措置	: 皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。(P302+P352) ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察/手当てを受けること。 (P308+P313) 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。(P314) 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診察/手当てを受けること。 (P333+P313) 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。(P362+P364) 漏出物を回収すること。(P391)
保管	: 施錠して保管すること。(P405)
廃棄	: 内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。 (P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 化学物質

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法番号	安衛法番号	
シフルメトフェン	≥96%	C24H24F3NO4	-	7-(4)-1065	400882-07-7

上記濃度又は濃度範囲は、規格値ではありません。

上記濃度又は濃度範囲に記載の%は、個別表記があるものを除き、全て重量%となります。

4. 応急措置

応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。
多量の水と石鹼で優しく洗うこと。
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 眼に入った場合 : 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用してい
て容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。
直ちに医師に診断／手当てを受けること。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 水噴霧、泡消火剤、乾燥粉末消火剤、二酸化炭素、砂
- 使ってはならない消火剤 : 強い水流は使用しない。
- 爆発の危険 : 加熱により、容器が爆発するおそれがある。
- 火災時の危険有害性分解生成物 : 火災時に刺激性もしくは有毒なフュームまたはガスを発生する。
- 消火方法 : 着火した場合、初期消火は、火元(燃焼源)を断ち、適切な消火剤を用いて一挙に
消火する。
周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。
移動不可能な場合、容器及び周囲の設備等に散水し、冷却する。
消火に使用した水が環境中に流出しないようにする。
消火後も大量の水を用いて容器を冷却する。
- 消火時の保護具 : 消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- 一般的措置 : 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。
関係者以外の立ち入りを禁止する。
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
作業の際には、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、必ず適切な
保護具を着用し、風下で作業行わない。

環境に対する注意事項

- 環境に対する注意事項 : 環境への放出を避けること。
下水道や公共用水域への侵入を防ぐ。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 浄化方法 : 粉塵を発生させないように注意し、できるだけ掃き集めて密閉できる空容器に回収
し、安全な場所に移動する。
回収跡は多量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用して作業
する。
漏れ、あふれ、飛散しないように取扱い、ミスト、蒸気の発生を少なくし、換気を十
分にする。

安全取扱注意事項	: この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗いうがいをする事。 作業所の十分な換気を確保する。 接触、吸入又は飲み込まないこと。
接触回避	: 長時間または反復の暴露を避ける。
保管	
安全な保管条件	: 施錠して保管すること。 直射日光を避け、換気の良い場所に保管する。容器を密閉し、火気、熱源より遠ざける。
安全な容器包装材料	: 遮光した気密容器。
技術的対策	: 適用法令を遵守する。
保管温度	: 冷蔵保管: 2~10°C

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策	: 取扱場所での発生源の密閉化、または局所排気装置、全体換気装置の設置。取扱い場所の近くに安全シャワー、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。
------	---

保護具

皮膚及び身体の保護具	: 保護服、保護長靴、保護前掛け
眼の保護具	: 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
手の保護具	: 保護手袋
呼吸用保護具	: 防塵マスク

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 固体
外観	: 粉末
色	: 白色
臭い	: 無臭
pH	: データなし
融点	: 77.9 - 81.7 ° C
凝固点	: データなし
沸点	: 269.2 ° C
引火点	: データなし
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
可燃性	: データなし
蒸気圧	: 3.1×10^{-5} Pa (25°C)
相対密度	: データなし
密度	: 1.2 g/cm ³ (20°C)
相対ガス密度	: データなし
溶解度	: アセトンに可溶。ジクロロメタンに可溶。酢酸エチルに可溶。n-ヘキサンに可溶。メタノールに可溶。トルエンに可溶。 水: 0.00281 mg/l (20°C)
n-オクタノール/水分配係数(Log Pow)	: 4.3
爆発限界 (vol %)	: データなし
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: データなし
化学的安定性	: 通常の取扱い条件では安定である。293℃まで安定。弱酸性溶媒中で安定。アルカリ性溶媒中で不安定。
危険有害反応可能性	: データなし
避けるべき条件	: 日光、熱
混触危険物質	: データなし
危険有害な分解生成物	: 窒素酸化物、ふっ素、ふっ素化合物

11. 有害性情報

シフルメトフェン	
急性毒性(経口)	【分類根拠】(1)より、区分に該当しない。【根拠データ】(1)ラット(雌)の LD50:> 2,000 mg/kg(OECD TG 420、GLP)(食安委 農薬評価書(2020)、JMPR(2014)、ECHA RAC Opinion(2017))
急性毒性(経皮)	【分類根拠】(1)より、区分に該当しない。【根拠データ】(1)ラットの LD50:> 5,000 mg/kg(OECD TG 402、GLP)(食安委 農薬評価書(2020)、JMPR(2014)、ECHA RAC Opinion(2017))
急性毒性(吸入:気体)	【分類根拠】GHS の定義における固体であり、区分に該当しない。
急性毒性(吸入:蒸気)	【分類根拠】データ不足のため分類できない。
急性毒性(吸入:粉末)	【分類根拠】(1)からは区分を特定できず、データ不足のため分類できない。【根拠データ】(1)ラットの LC50(4時間):> 2.65 mg/L(OECD TG 403、GLP)(食安委 農薬評価書(2020)、JMPR(2014)、ECHA RAC Opinion(2017))
急性毒性(吸入:ミスト)	データなし
皮膚腐食性/刺激性	【分類根拠】(1)、(2)より、区分に該当しない。【根拠データ】(1)ウサギ(n=3)を用いた皮膚刺激性試験(OECD TG 404、GLP、半閉塞、4時間適用、72時間観察)において、全例で皮膚刺激性反応はみられなかった(紅斑・痂皮スコア:0/0/0、浮腫スコア:0/0/0)との報告がある(ECHA RAC Opinion(2017)、CLH Report(2016))。(2)ウサギ(n=3)を用いた皮膚刺激性試験(GLP、半閉塞、4時間適用、72時間観察)において、全例で皮膚刺激性反応はみられなかった(紅斑・痂皮スコア:0/0/0、浮腫スコア:0/0/0)との報告がある(農薬抄録(2017))。
眼に対する重篤な損傷又は刺激性	【分類根拠】(1)、(2)より、区分に該当しない。【根拠データ】(1)ウサギ(n=3)を用いた眼刺激性試験(OECD TG 405、GLP、22日観察)において、結膜発赤が15日後まで持続したが、22日後には回復した(角膜混濁スコア:0/0/0、虹彩炎スコア:0/0/0、結膜発赤スコア:1/1.3/0.7、結膜浮腫スコア:0/0/0)との報告がある(ECHA RAC Opinion(2017)、CLH Report(2016))。(2)ウサギ(n=4)を用いた眼刺激性試験(GLP、21日観察)において、非洗眼群(3例)で14日後までごく軽度あるいは軽度の結膜発赤がみられたが、21日後には消失した(非洗眼群3例の角膜混濁スコアの平均:0.0、虹彩炎スコアの平均:0.0、結膜発赤スコアの平均:1.8、結膜浮腫スコアの平均:0.0)との報告がある(農薬抄録(2017))。
呼吸器感受性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。
皮膚感受性	【分類根拠】(1)より、区分1Aとした。【根拠データ】(1)モルモット(n=10)を用いたMaximisation試験(OECD TG 406、GLP、皮内投与:1%懸濁液)において、惹起24、48時間後に全例(100%)で感受性反応として紅斑がみられたとの報告がある(ECHA RAC Opinion(2017)、CLH Report(2016)、農薬抄録(2017))。
生殖細胞変異原性	【分類根拠】(1)~(5)より、区分に該当しない。【根拠データ】(1)マウスの骨髄細胞を用いた小核試験(OECD TG474、GLP、2回強制経口投与)において、陰性との報告がある(食安委 農薬評価書(2020)、CLH Report(2016)、農薬抄録(2017)、RAC Opinion(2017))。(2)ラットの肝細胞を用いたUDS試験((OECD TG486、GLP、単回強制経口投与)において、陰性との報告がある(食安委 農薬評価書(2020)、CLH Report(2016)、農薬抄録(2017)、RAC Opinion(2017))。(3)細菌復帰突然変異試験(OECD TG471、GLP)において、陰性との報告がある(食安委 農薬評価書(2020)、CLH Report(2016)、農薬抄録(2017)、RAC Opinion(2017))。(4)マウスリンパ腫L5178Y細胞を用いたマウスリンフォーマTK試験(OECD TG476、GLP)において、陽性との報告がある(食安委 農薬評価書(2020)、CLH Report(2016)、農薬抄録(2017)、RAC Opinion(2017))。(5)ほ乳類培養細胞(CHL、CHL(V79))を用いた染色体異常試験(OECD TG473、GLP)において、陰性との結果が得られている(食安委 農薬評価書(2020)、

シフルメトフェン	
	CLH Report (2016)、農薬抄録 (2017)、RAC Opinion (2017))。
発がん性	<p>【分類根拠】(1)～(5)より、区分 2 とした。【根拠データ】(1)国内外の分類機関による既存分類では、EPA で S (Suggestive Evidence of Carcinogenic Potential) に分類されている (EPA Annual Cancer Report 2018 (Accessed Oct. 2020):2013 年分類)。(2)ラットの 2 年間発がん性試験 (混餌投与) では、最高投与群 (6,000 ppm) で腫瘍性病変として雄に精巣間細胞腫の発生頻度の有意な増加 (48/50 例:96%) が認められた。本腫瘍の発生頻度は、試験実施施設における 20 年間の背景データ (28～50/50 例:56%～100%:1993～2012 年) の範囲内であったが、10 年間の背景データ (28～43/50 例:56%～86%:2003～2012 年) を上回ることから、検体投与の影響と考えられた (食安委 農薬評価書 (2020)、CLH Report (2016)、ECHA RAC Opinion (2017))。(3)上記(2)と(3)のラット発がん性試験結果から、甲状腺 C 細胞がんの発生頻度の増加傾向もみられた。甲状腺 C 細胞がんの発生頻度は背景データの範囲を超えていた。C 細胞の腺腫とがんの合計頻度には統計的に有意な増加が認められた (CLH Report (2016)、ECHA RAC Opinion (2017))。(4)マウスの 18 カ月間発がん性試験 (混餌投与) では、10,000 ppm 投与で発がん性は認められなかった (CLH Report (2016)、ECHA RAC Opinion (2017))。(5)本物質は EPA の 2005 年発がんリスク評価では S に分類された。この分類は単一腫瘍 (甲状腺 C 細胞) が動物種 1 種片性 (雄ラット) のみに認められたこと、及び変異原性を欠くことに基づく (US Federal Register Vol. 84, No. 89 (2019))。【参考データ等】(6)ラットの 2 年間発がん性試験 (混餌投与) では、1,500 ppm までの用量で検体投与により発生頻度の増加した腫瘍性病変は認められなかった。発がん性は認められなかった (食安委 農薬評価書 (2020))。(7)マウスの 18 カ月間発がん性試験 (混餌投与) では、5,000 ppm までの用量で検体投与により発生頻度の増加した腫瘍性病変は認められなかった。発がん性は認められなかった (食安委 農薬評価書 (2020)、CLH Report (2016)、ECHA RAC Opinion (2017))。(8)EU の CLP 分類提案者はラットの 6,000 ppm 投与群では雄に精巣間細胞腫と甲状腺 C 細胞の腺腫とがんの合計発生率の増加が認められると報告した。このうち、精巣の間細胞腫は F344 ラットでは好発性の腫瘍でこの腫瘍の発生増加は分類する上で考慮する上必要はないとした。しかし、甲状腺 C 細胞の腺腫/がんは最新の背景データの範囲を上回り、検体投与による影響と考えられた。雄ラットの甲状腺 C 細胞腫瘍の発生増加に基づき、CLP 分類として Carc. 2 が提案された (CLH Report (2016)、ECHA RAC Opinion (2017))。ECHA の RAC は、背景頻度を上回るとの現実的なシグナルが示されたとはいえ、発がん性の証拠は弱く、RAC が Carc. 2 の分類を保証するには不確実性が高いと疑問を呈した (ECHA RAC Opinion (2017))。</p>
生殖毒性	<p>【分類根拠】(1)～(4)より、区分に該当しない。【根拠データ】(1)ラットを用いた混餌投与による二世代生殖毒性試験 (OECD TG416、GLP) において、500 ppm 及び 1,500 ppm で親動物に副腎への影響 (絶対及び比重増加、球状帯び慢性細胞肥大、束状帯び慢性細胞肥大) がみられ、兎動物にも同様の所見がみられた。また、その他の所見として、500 ppm で親動物に卵巣刺激ホルモン及びプロゲステロン濃度低下 (F1)、兎動物に膈開口遅延 (F1 雌)、1,500 ppm では 500 ppm でみられた影響に加えて、親動物に一般毒性影響 (下垂体絶対又は比重量増加、体重増加量抑制など)、卵巣絶対及び比重量増加 (P 雌)、卵巣間質細胞空胞化、17β-エストラジオール濃度低下、平均発情周期延長 (F1 雌)、兎動物に包皮分離遅延 (F1 雄)、体重増加抑制 (F2) がみられた。なお、繁殖能に対する影響は認められなかったとの報告がある (食安委 農薬評価書 (2020)、農薬抄録 (2017))。(2)(1)の試験において、F1 雌の高用量群にみられた発情周期の延長は背景データの範囲内、中用量以上でみられた血清 FSH・プロゲステロンの低下と高用量群の 17β-エストラジオールの低下及び卵巣の間質細胞空胞化は試験動物数が少ないことから、本物質の投与による繁殖影響としての妥当性については議論の余地があるとされ、本物質の繁殖能への影響として分類する必要はないとの判断が示された (CLH Report (2016)、ECHA RAC Opinion (2017))。(3)ラットを用いた強制経口投与による発生毒性試験 (OECD TG414、GLP、妊娠 6～19 日) において、250 mg/kg/day で親動物に副腎重量増加及び副腎皮質細胞空胞化、胸骨分節不完全骨化の胎児を有する母動物数増加がみられたが、催奇形性は認められなかったとの報告がある (食安委 農薬評価書 (2020)、農薬抄録 (2017)、CLH Report (2016))。(4)ウサギを用いた強制経口投与による発生毒性試験 (OECD TG414、GLP、妊娠 6～28 日) において、250 mg/kg/day で兎動物に腰椎の骨化数減少、1,000 mg/kg/day で親動物に摂餌量減少、体重増加抑制、胎盤重量低下、兎動物に腰椎の骨化数減少、低体重、角張った舌骨翼増加、胸骨分節不完全骨化がみられたが、催奇形性は認められなかったとの報告がある (食安委 農薬評価書 (2020)、農薬抄録 (2017)、CLH Report (2016))。【参考データ等】(5)ラット及びウサギを用いた発生毒性試験では、胎児の発生影響として非</p>

シフルメトフェン	
	可逆性の構造的影響の報告はなく、発生影響について EU-CLP の規準として分類する必要はないとの判断が示された (CLH Report (2016))。また、RAC は受胎能、性機能及び児動物の発生影響に対して分類区分を付す必要はないと判断した (ECHA RAC Opinion (2017))。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	【分類根拠】(1)～(4)より、経口及び経皮経路では区分に該当しない。なお、(3)は区分 2 上限付近の用量における影響が不明のため、分類に利用できない。ただし、吸入経路での分類に十分な情報がなく、データ不足のため分類できない。【根拠データ】(1)ラット(雌)を用いた単回経口投与試験 (OECD TG 420、GLP)において、2,000 mg/kg(区分 2 の範囲)で軟便(1 例)がみられ、死亡例はなかったとの報告がある(食安委 農薬評価書 (2020)、農薬抄録 (2017)、CLH Report (2016)、ECHA RAC Opinion (2017))。(2)ラットを用いた強制経口投与による急性神経毒性試験において、2,000 mg/kg(区分 2 の範囲)で一般状態や行動に変化はなく、本物質は急性神経毒性を有しないと結論付けられたとの報告がある (CLH Report (2016)、ECHA RAC Opinion (2017))。(3)ラットを用いた単回経皮投与試験 (OECD TG 402、GLP)において、5,000 mg/kg(区分に該当しない範囲)で症状及び死亡例はみられなかったとの報告がある(食安委 農薬評価書 (2020)、農薬抄録 (2017)、CLH Report (2016)、ECHA RAC Opinion (2017))。(4)ラットを用いた単回吸入(粉塵)ばく露試験 (OECD TG 403、GLP)において、2.65 mg/L(区分 2 の範囲)で過大呼吸、鼻及び下顎周囲の褐色化がみられ、死亡例はなかったとの報告がある(食安委 農薬評価書 (2020)、農薬抄録 (2017)、CLH Report (2016)、ECHA RAC Opinion (2017))。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	【分類根拠】(1)～(4)より、標的臓器は副腎と考えられ、区分 2 の用量範囲で影響がみられることから、区分 2 (副腎)とした。【根拠データ】(1)ラットを用いた混餌投与による 90 日間反復経口投与試験 (OECD TG 408、GLP)において、1,000 ppm 以上 (54.5 mg/kg/day(雄)、62.8 mg/kg/day(雌)、区分 2 の範囲)で副腎影響(び慢性皮質細胞空胞化(雄)、副腎比重量増加・副腎び慢性皮質細胞肥大(雌))、肝比重量増加(雄)、卵巣間質細胞空胞化(雌)がみられたとの報告がある(食安委 農薬評価書 (2020)、農薬抄録 (2017)、CLH Report (2016)、ECHA RAC Opinion (2017))。(2)ラットを用いた混餌投与による 1 年間慢性毒性試験 (OECD TG 452、GLP)において、1,500 ppm (56.8 mg/kg/day(雄)、69.2 mg/kg/day(雌)、区分 2 の範囲)で血液系影響(RBC 増加、MCH 及び MCV 減少等)、副腎影響(雌:絶対及び比重量増加、雌雄:び慢性皮質細胞肥大)、肝臓影響(雄:絶対及び比重量増加・び慢性肝細胞肥大)、卵巣影響(間質細胞空胞化がみられたとの報告がある(食安委 農薬評価書 (2020)、農薬抄録 (2017)、CLH Report (2016)、ECHA RAC Opinion (2017))。(3)イヌを用いたカプセル投与による 1 年間慢性毒性試験 (OECD TG 452、GLP)において、300 mg/kg/day(区分に該当しない範囲)で副腎影響(副腎皮質細胞の微細空胞形成・大型空胞出現・副腎束状帯から網状帯に限局性リンパ球浸潤・副腎皮質細胞の変性、TG 減少・副腎皮質に褐色色素含有マクロファージ浸潤(雄)、副腎間質線維化(雌))がみられたとの報告がある(食安委 農薬評価書 (2020)、農薬抄録 (2017)、CLH Report (2016)、ECHA RAC Opinion (2017))。(4)ラットを用いた混餌投与による 2 年間慢性毒性/がん原性併合試験 (OECD TG 451、GLP)において、1,500 ppm (49.5 mg/kg/day(雄)、61.9 mg/kg/day(雌)、区分 2 の範囲)で副腎び慢性皮質細胞肥大、子宮角の腺腔拡張(雌)がみられたとの報告がある(食安委 農薬評価書 (2020)、農薬抄録 (2017)、CLH Report (2016)、ECHA RAC Opinion (2017))。【参考データ等】(5)ラットを用いた 28 日間反復経皮投与試験 (OECD TG 410、GLP、6 時間/日、5 日/週)において、1,000 mg/kg/day(ガイダンス値換算: 222.2 mg/kg/day)で影響がみられなかったとの報告がある(食安委 農薬評価書 (2020)、CLH Report (2016)、ECHA RAC Opinion (2017))。
誤えん有害性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

シフルメトフェン	
水生環境有害性 短期(急性)	データ不足のため分類できない
水生環境有害性 長期(慢性)	急速分解性がなく(BIOWIN)、藻類(ムレミカヅキモ)の 72 時間 NOEC(Biomass/growth rate) = 0.0396 mg/L(EU CLP CLH, 2016)から、区分 1 とした。
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

13. 廃棄上の注意

- 化学品(残余廃棄物) : 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。
- 汚染容器及び包装 : 容器の内容物を完全に除去してから廃棄する。
空容器は地域の条例に準拠してリサイクル、再利用または廃棄する必要がある。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上輸送(IMDG)

- 国連番号 (IMDG) : 3077
- 正式品名 (IMDG) : ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N.O.S.
- 容器等級(IMDG) : III
- 輸送危険物分類 (IMDG) : 9
- 危険物ラベル (IMDG) : 9
- クラス(IMDG) : 9
- 特別規定 (IMDG) : 274、335、966、967、969
- 少量危険物(IMDG) : 5 kg
- 微量危険物(IMDG) : E1
- 包装要件(IMDG) : LP02、P002
- 特別包装規定 (IMDG) : PP12
- IBC 包装要件(IMDG) : IBC08
- IBC 特別規定(IMDG) : B3
- ポータブルタンク包装規定 (IMDG) : BK1、BK2、BK3、T1
- 輸送特別規定-タンク(IMDG) : TP33
- 積載区分 (IMDG) : A
- 緊急時応急措置指針番号 : 171

航空輸送(IATA)

- 国連番号 (IATA) : 3077
- 正式品名 (IATA) : Environmentally hazardous substance, solid, n.o.s.
- 容器等級 (IATA) : III
- 輸送危険物分類 (IATA) : 9
- 危険物ラベル (IATA) : 9
- クラス (IATA) : 9
- PCA 微量危険物(IATA) : E1
- 特別管制区(PCA)少量危険物(IATA) : Y956
- 特別管制区(PCA)数量限定物の最大積載量(IATA) : 30kgG
- PCA 包装要件(IATA) : 956
- 特別管制区(PCA)最大積載量(IATA) : 400kg
- CAO 包装要件(IATA) : 956
- 貨物機専用(CAO)最大積載量 (IATA) : 400kg
- 特別規定(IATA) : A97、A158、A179、A197、A215
- ERG コード (IATA) : 9L
- 海洋汚染物質 : 該当

国内規制

- 海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。
- 航空規制情報 : 航空法の規定に従う。
- 緊急時応急措置指針番号 : 171
- 特別な輸送上の注意 : 運搬に際しては、容器の転倒、損傷、落下、荷崩れ等しないように積み込み、漏出のないことを確認する。

15. 適用法令

国内法令

労働安全衛生法	: 非該当
毒物及び劇物取締法	: 劇物・除外品目(指定令第2条) 有機シアン化合物/2-メトキシエチル=(RS)-2-(4-tert-ブチルフェニル)-2-シアノ-3-オキソ-3-(2-トリフルオロメチルフェニル)プロパノアート及びこれを含有する製剤
水質汚濁防止法	: 有害物質(法第2条、施行令第2条、排水基準を定める省令第1条)
消防法	: 非該当
外国為替及び外国貿易法	: 輸出貿易管理令別表第1の16の項
船舶安全法	: 有害性物質(危規則第2, 3条危険物告示別表第1)
航空法	: その他の有害物質(施行規則第194条危険物告示別表第1)
水道法	: 有害物質(法第4条第2項)、水質基準(平15省令101号)
下水道法	: 水質基準物質(法第12条の2第2項、施行令第9条の4)
化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法)	: 【改正後 令和5年4月1日以降】 第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1) 2-(4-ターシャリーブチルフェニル)-2-シアノ-3-オキソ-3-(2-トリフルオロメチルフェニル)プロパン酸=2-メトキシエチル(別名シフルメトフェン)(管理番号: 716)(100%)
土壤汚染対策法	: 特定有害物質(法第2条第1項、施行令第1条)

16. その他の情報

参考文献	: 17322 の化学商品(化学工業日報社) 国際化学物質安全性カード(ICSC) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE) ERG2020 版 緊急時応急措置指針(日本規格協会)
その他の情報	: この SDS は林純薬工業株式会社の著作物です。当該製品の化学物質製品を取り扱う事業者に対して提供するものであり、安全を保証するものではありません。現時点における該当化学物質の情報を全て検証しているわけではありません。当該化学物質について常に未知の危険性が存在するという認識で、製品運搬・開封から廃棄に至るまで、安全を最優先して使用者自己の責任においてご使用下さい。当該化学物質を使用する際は、使用者自ら安全情報を収集すると共に使用される場所・機関・国などの、法規制等については使用者自ら調査し最優先させていただきます。国または地方の規制についての調査は、当社としては行いかねますので、この問題については使用者の責任で処理願います。当該物質の日本語による SDS と他国言語にて翻訳された SDS が存在する場合、内容の相違があるなしに関わらず日本語で記述された文書が優先され他国言語による文書は参考文書とします。